

備後国府跡の保護に関する決議

私たちが暮らす府中市は、奈良・平安時代には備後国府が置かれ、広島県東部の政治・経済・文化の中心であった。国府の周辺には各種の工房があり、さまざまな手工業生産者が居住しており、それが現在のものづくりのまちへとつながっていると言われている。

国府跡は地下深くに埋もれており、その場所は長い間不明であったが、教育委員会による30年に及ぶ発掘調査で、その姿をあらわしつつある。先人たちから受け継いだ、大切な「歴史遺産」「まちの記憶」であることは間違いなく、住民と行政が協働して、後世にしっかりと伝えていく責務がある。

国府跡を長く保護していくためには、その重要性を広く市内外に知らせ、まちづくりに活かす取り組みも重要となる。現在、教育委員会を中心に開催されているさまざまな普及のためのイベントなどを、より一層盛り上げるとともに、地域住民の英知を結集したまちづくりの仕組みづくりが急がれる。

これらのことを踏まえ、本市議会は、府中市の原点である国府を歴史文化遺産として末永く後世に継承することに努めるとともに、地域住民と行政の協働により、国府を活かした活気あるまちづくりを推進する。

また、国府の歴史、伝統に由来する遺産を活用して、地域住民の府中への愛着心の醸成に努め、その歴史的価値、文化的価値、観光的価値を、市内外に向けて発信するとともに、国府に由来する歴史文化遺産を、積極的に地域及び学校教育の資源として活用し、次代を担う子どもたちの育成に取り組む。

以上、決議する。

平成25年6月14日

広島県府中市議会